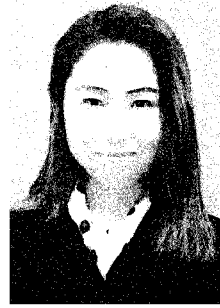


やまなし青年海外セミナー

に参加して

地場洋恵



タイで過ごした九日間の思い出は、私にとって生涯忘れることのない、かけがえない宝物です。

九月四日、日本を出発し、およそ五時間の空の旅でタイのバンコクに到着しました。バンコクに着いてまず驚いたのは、車の多さです。なかでも日本車の新車が多く、道路は常に混雑していま

た。街は活気にあふれているといった印象でした。

翌日、私たちは今回のセミナーの最大の目的であるワークキャンプの開催地のパヤオ県へ向かいました。パヤオはタイの北部にある農村で、私たちはドッカムタイ地区へ滞在しました。そこでのワークキャンプの内容は、「サーヤ」と呼ばれる、回りの壁がなく柱と屋根でできているホールを建設することでしたが、実際にはすでに大半が出来あがっていて、私たち



最後の仕上げを手伝いました。日頃やり慣れない重労働でしたが、地元の人々とともにする作業は、とても楽しいものでした。タイの人々はみんなとても明るく、コンクリートをねるための砂利や水をバケツリレーで運ぶ時にも、陽気な歌が飛び出してくるほどでした。

夜には現地の人々の交流会を行い、タイの民族舞踊を見物したり、一緒にハンドゲームや「よっしゃばれ音頭」を踊ったりして交流を深めました。



た。

この地区の人々は、昔から農業で生計を立てていました。しかし、緑の革命がおき、大企業が農業に加わるようになり、農民は従来の自然農法から化学肥料を用いるようになりました。実際、見た目の美しい農作物はできませんが、土地は痩せ衰え、十分な作物が得られなくなってしまいました。農民は生活難だと現地のYMCAのスタッフの方が話してくださいました。私が実際、訪れてみての感想は、貧しさなど感じさせないほどみんな陽気で明るく、やさしい人たちがばかりでした。子どもたちの目は澄み輝いていました。あっという間に二泊三日が過ぎ、仲よくなった子どもたちと別

れる時にはとても悲しく、涙が止まりませんでした。温かく迎えてくれたタイの人々に感謝の気持ちでいっぱいでした。

そして、私はこの時、再びこの地に訪れ、子どもたちと再会しようと思いに決めました。私たちが地元の人々に協力して作ったホールは『夢と希望へのホール』と名付けられ、地元の人々に有意義に使用されることと思います。

国と国との交流は、私たち個人レベルでの交流が基礎になっていると思います。心のふれあいを大切にしたいと思えます。国際化の第一歩は、自国について知り、相手に伝えられるものを持つことだと、今回のセミナーを通して、つくづく実感しました。そして、異なった文化を持つ人々と接し、お互いの長所、短所を学ぶことが大切だと思えます。そして、今回のやまなし青年海外セミナーに参加して得たこのすばらしい体験を、これからの生活に生かし、ボランティア活動などへも積極的に参加し、役立てていきたいと思えます。私にこのようにすばらしい機会を与えてくださった方々に、心から感謝したいと思えます。本当にありがとうございました。

第十回芸術鑑賞

『パナンペ・ペナンペ むかしがたり』

十月十六日に谷村第一小学校で第十回芸術鑑賞『パナンペ・ペナンペむかしがたり』の公演が開催されました。

秋晴れの中、お年寄りから小さい子どもまで六百人が公演を真剣に鑑賞しました。

この公演はつる子どもまつり関連企画として、毎年一回舞台演劇を呼んで、だれでも気軽に芸術鑑賞ができるようにと計画されたものです。

来年もこの時期に芸術鑑賞を行います。市民の皆さんの参加を心よりお待ちしております。

